

よりよい学校教育相談チェックリスト

【本チェックリスト活用の目的】

本チェックリストは、客観的視点を基に各校の実態を把握し、教育相談力を向上させるために有効活用するものです。また、教育相談の実施に際して、取り組むべき方向性の指標としても活用できます。学校間の比較をするものではなく、担当者等個人の責任や公開の義務はありません。

【使用上の留意点】

- ・教育相談担当の活用が望ましいです。校内を見渡すことのできる教職員が行うことで効果を高めます。複数で活用し検討する等の活用方法の工夫によって、より高い効果を期待できます。
- ・メモ欄は、明確になった課題や今後の手立てとなる案を記入し、自由に活用してください。評価の根拠等を他の人に報告する必要はありません。
- ・指標の言葉に注意を払い、曖昧な回答を避けるとより正確に実態を確認できます。なお、①の目的や意義及び②の方法や技術については、「中学校学習指導要領解説『特別活動編』（現行）」、「生徒指導提要」の該当項目を参照してください。

【満足度の評価】

5：あてはまる 4：どちらかというにあてはまる 3：どちらかというにあてはまらない 2：あてはまらない 1：判断できない

診断項目	満足度及びメモ欄
1 教育相談の目的や意義が周知され、校内の教職員が理解している。	満足度 : 5 4 3 2 1
	メモ欄
2 校内の教職員が教育相談の方法や技術を身に付けている。	満足度 : 5 4 3 2 1
	メモ欄
3 教職員間で教育相談に関する全体計画と年間計画が共通理解されており、計画的な教育相談活動が行われている。 ※ 全体計画と年間計画を区別すること。教育相談活動はあらゆる機会に行われる全てのものを指す。	満足度 : 5 4 3 2 1
	メモ欄
4 事案や状況に応じて情報を共有し、全教職員で児童生徒理解を深めている。 ※ 学校全体あるいは関係する教職員の共通認識と、情報共有にとどまらない児童生徒理解とする。	満足度 : 5 4 3 2 1
	メモ欄

5 教育相談に関する校内研修が充実している。	満足度 : 5 4 3 2 1
	メモ欄
6 問題発生時に適切な役割分担のもと、チームとしての意識をもち複数で対応できる“態勢”である。 ※ 校務分掌上の役割だけではなく、緊急時や臨時の分担。態勢は体制と区別する。	満足度 : 5 4 3 2 1
	メモ欄
7 校内での連携を推進できる存在がある。 ※ 教育相談担当や生徒指導主任等に限らない。	満足度 : 5 4 3 2 1
	メモ欄
8 教職員間で SOS を出すことができ、助け合っている。 ※ 業務上の困難や私的な事柄を含む。	満足度 : 5 4 3 2 1
	メモ欄
9 教職員同士が互いに尊重し合い、相手の立場を思いやり、より良い方向に向かって協力し合っている。 ※ 一本化された方針の下で、意見を出し合えること。	満足度 : 5 4 3 2 1
	メモ欄
10 前向きに子どもの話やお互いの声かけが自然にできる、居心地の良い職員室になっている。	満足度 : 5 4 3 2 1
	メモ欄

【教育相談をよりよくするための手立て】